

(仮称) 武庫川「川の駅」構想について(案)

051102 武庫川流域委員会委員 田村博美

1. 構想の背景と骨子

武庫川は、流域 7 市を貫流し、地形、地質、周辺の土地利用、環境、立地特性など多様な要素を持っている。篠山から三田にかけては盆地形の田園地帯、神戸、西宮北部、宝塚北部にかけては渓谷地帯、宝塚南部、伊丹では扇状地形、西宮南部、尼崎にかけては平地形の中を貫流する。

時には流域各地に多大な災害を引き起こす暴れ川であり、平常時は利水や生活や産業活動と密接に関わりを持ってきた重要な流域の資産である。これらにまつわる様々な伝承や物語が今に伝えられている。

三田、宝塚では市の中心市街地を貫流し、市街地の景観ポイント、親水公園、観光拠点等として重要な位置にある。西宮南部、尼崎等では天井川となり堤防の緑地や樹林が市街地背景の重要景観として、またスポーツ・レクリエーション拠点としても重要な役割を果たしている。

このような武庫川の位置づけと役割を流域一体の資産として捉え、以下の目標を達成するためのモデルとして武庫川「川の駅」構想が考えられる。まさに上流から下流を結び、まちと川を結ぶ拠点づくりとして具体化に向けた検討をしている。

上流から中流、下流域の住民と行政の相互連携と協働により、一層魅力的かつ安全で快適な空間として利活用していく。また、上流の山林や農地、自然環境の適切な維持管理が下流を守るという意識を持って流域連携の強化を図る。武庫川にまつわる伝承、言い伝え、名所、名勝等の紹介。

情報発信、交流、啓蒙、協働の拠点等、武庫川と流域の自然環境学習や体験ポイントとして。武庫川学、武庫川塾の拠点として。武庫川の文化交流拠点、自然観察、環境学習の拠点として。

周辺の市街地やまちと相互連携し、武庫川の地域資源とまちの地域資源をネットワークすることにより、個性と魅力ある地域づくりを促進する。市街地の水路、緑地、公園、文化歴史資源、学校、公共公益施設、散策路やハイキング道、旧街道等と武庫川水系のさまざまな資源がネットワークすることにより、地域の魅力と快適環境の整備を促進する。

地域資源情報、地域イベント情報、散策・歴史文化資源めぐり案内、武庫川資源の説明、公園施設利用窓口、管理拠点等利活用拠点として。地域特産市、朝市等地域活性化拠点として。自然観察、環境学習の拠点として。武庫川ギャラリーとして写真や絵はがき展、市民交流の場として。

武庫川の総合治水をより一層効果的に進めるための防災拠点、災害救助拠点の整備を行う。

防災情報、防災啓蒙活動、非常時情報発信、緊急時の監視拠点、パトロール拠点、避難誘導、災害救助、ボランティア活動拠点等として。過去の災害歴ギャラリー、災害時の避難、誘導説明等。

三田市、宝塚市等では武庫川を重要で有用な地域資源また中心軸として捉え、川から見たまちづくりや景観づくり、川に向けたまちづくりを行い、より個性的で魅力ある地域づくりを行う。

魅力ある親水拠点の整備、特色ある景観整備、ウオーターフロント空間の整備、カフェテラスや休憩テラス、展望テラス、広場の提供等川まちづくりのモデル拠点として。

2. 配置の基本方針

上流から下流まで農山村、自然、市街地など武庫川の多様な立地特性と環境を体現できる場所。

都市やまちの地域資源と密接な連携が図れる場所。

道路、鉄道、ハイキング道等交通ネットワーク、公共交通機関の駅や停留所からのアクセスが容易な場所。

既設の公共公益施設、民間集客施設等との連携、兼用が図れる場所。

地域のまちづくり、地域活性化、都市環境、景観整備、防災・避難拠点等の観点から適切な場所。

以上の視点から適切な場所を選定し、必要な機能を配置する。

武庫川「川の駅」構想概念図

